

人生の初めの一步を踏み出す 多様な体験と出会い

子連れで安心して利用できる
コワーキングスペース

鈴木 翔子 さん (豊科)

本年6月にオープンした子連れで利用できるコワーキングスペース「ライフホップ」。キャリアコンサルタントの資格を生かし学生から大人までキャリア相談に応じる鈴木翔子さんに話を聞きました。

海外生活で変わった価値観

20代のころは大企業で生涯現役でバリバリ働くことが夢でしたが、結婚して第一子の妊娠中に転職が訪れました。夫のフィリピン赴任が決まり初めての育児を一人ですること。次第に夫との子育てに対する溝に悩むようになり、会社を退職し渡航することを決めました。渡航直後は、会社員でも何者でもない自分に絶望し目標を見失っていました。しかし、現地の子育てサークルで同じ境遇の人と気持ちを共有したり、座談会を開くなどして多くの人と出会い、チャレンジしているうちに「いろいろな働き方や生き方がある、どれを選んでもいい。価値観は一つじゃない」と気付かれました。

ながらいくつかの企業でフリーランスとして働きました。スキルを身につけながら新たな環境で新たなものを生み出す楽しさを体感しているうちに「会社員でなくても自分で好きな仕事ができる」という価値観に変わってきました。

体験と出会いから踏み出す一歩

フリーランス時代にコワーキングスペースの必要性を感じたこと、かつての私のように育児と仕事の両立に悩む人が相談できる出合いの場を作りたいと思うようになり「ライフホップ」をオープンしました。フィリピンで経験したように利用者同士が、多様な体験や出会いを通じて「自分の人生を選ぶ一歩を踏み出す」場になればと願いながら運営しています。また、帰国後に取得したキャリアコンサルタントの資格を生かして、起業を考える人や出産や退職でキャリアに悩む人のためにセミナーや座談会も行っています。コワーキングとセミナーを組み合わせ、やりたいことの発見や収入アップのサポートになればと思っています。



帰国後は、この気持ちを大切にしたい。価値観は一つじゃない」と気付かれました。

現在は、親子で安曇野を楽しんでもらえるワーケーション体験にも取り組んでいます。首都圏に住む人が、安曇野の暮らしを体験しながら、安曇野に住む人とそれぞれの良さや違いを感じ、

東京都出身。大学で地方創生などを学び地方の魅力に引かれ安曇野へ1ター。本年6月にコワーキングスペース「ライフホップ」をオープン。キャリアコンサルタント、総合旅行業取扱管理者。

MEMO
○コワーキングスペース (O(共に) + WORKING(働く)の意味。場所の縛りがない環境で働く人たちのワークスタイル。
○ライフホップ
時間…平日午前9時〜午後4時
場所…穂高6073番地19
利用料金、セミナー、イベント情報など詳細はHP・インスタグラムから



駅利用者の思い出に 新駅スタンプ

9月23日 駅スタンプデザインコンテスト授賞式



10月1日から市内JR 駅に設置している記念スタンプがリニューアルしました。新しい駅スタンプは市と市観光協会、JR豊科駅が共同で企画し、市内中高生からデザインを応募しました。309点の作品の中から各駅的最優秀賞に輝いた作者にこのほど、表彰状が贈られました。11駅的最優秀賞の中には共同制作の作品もあり、14人の制作者がデザインしたスタンプは今後、駅利用者の多くの人の思い出となります。

一日市場駅のスタンプ図案で最優秀賞を受けた三郷中学校1年の金澤まちさん(13)は「学校から見える常念岳と三郷の特産品のリンゴをスタンプに込めた。まさか選ばれるとは思ってなかったので素直にうれしい」と話してくれました。

食欲の秋 スイーツが勢ぞろい

9月28日・29日 やさいスイーツフェアイベント



安曇野産の野菜を使ったスイーツを販売する「安曇野やさいスイーツフェア」のスタートを前にイベントが大王わさび農場レストラン OASIS で初めて開かれ、訪れた買い物客や観光客は、彩り豊かなスイーツを品定めしていました。14回目となる今年のテーマは夏秋イチゴ。各店が試行錯誤の上、見た目や味の特徴を活かして開発したスイーツがショーケースに並びました。家族で訪れた塚原純子さん(穂高)は「いろいろなスイーツがチラシに載っていて楽しみにしていた。家族で食べるのが楽しみ」と話してくれました。フェアは10月31日まで、市内14店舗で行われます。

くらしに工夫を 来場者がエコ体験

10月7日・8日 安曇野環境フェア2023

「ゼロカーボン 未来につなごう、安曇野の自然」をテーマに安曇野環境フェアが堀金総合体育館で開かれました。メインアリーナや屋外では市民団体や企業など57団体が展示や体験ブースを出展。多くの来場者がエコな暮らしの工夫などを学びました。また同日は、サブアリーナで県鳥川渓谷緑地開園20周年記念イベントも開催され、来場者がシカの角のアクセサリー作りや切り絵のワークショップを楽しんでいました。

両親と一緒にアルクマのオリジナルエコバッグ作りを楽しんでいた和田彩希ちゃん(6)は「幼稚園に持って行くのが楽しみ。お着替えを入れて友達に見せたい」と話してくれました。

